
春に降る雪

ヒバナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春に降る雪

【Nコード】

N43380

【作者名】

ヒバナ

【あらすじ】

木漏れ日の中で芽生えた淡い恋心。
俺はどうやら一目惚れをしたみたいだ

1、（前書き）

この小説はボーイズラブ要素があります。

激しい表現は控えておりますが、苦手な方には不快に感じるかもしれません

上記を踏まえたうえで、閲覧していただけるのであれば幸いです。

1、

大学生の頃、俺は小さな喫茶店で小遣い稼ぎのアルバイトをしていた。常連客とも会話をするくらいにはその店に勤めていた期間が長かった。淡く日が射す店内は静かで、客も少ない。ここまで楽で居心地のいいバイトなんてほかにはないと思ったからだ。

そこで少し他の客とは違った意味で仲良くなつた客が居た。

可愛らしく、一見中学生くらいの女の子に見える幼い風貌に反して注文するのは決まってブラックのアメリカンコーヒー。日当たりのいい席に座っていつも静かに本を開いていた。

見た目の年頃からして学校に通っている時間帯にいつも来るものだから、なんとなく興味がわいて注文を聞くときにさりげなく声をかけた。

「いつもお一人なんですね」

驚いた様子もなく微笑んだその顔にどきりとした。

「ここ、誰にも教えたくない穴場なんだよ」

いたずらっ子のように人懐こい笑顔を見せた彼に、俺はどうしようもない感情が湧き出すのを感じた。ああ、まずいと思ったときには遅かった。どうやら彼に一目で落とされたらしい。

それから注文のたび話をした。少しづつ彼を知るたびに俺のなかで

芽生えた感情も日に日に大きくなっていった。

笑い話なのは、彼が男なのだと気付いたのは少したってからということ。けれど、もうどっちだって関係ないくらいに特別になっていたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4338o/>

春に降る雪

2010年10月21日21時22分発行